

令和３年度 第２回宇治市小中一貫教育推進協議会会議録

会議名	令和３年度 第２回宇治市小中一貫教育推進協議会
日時	令和４年３月１１日（金） １８時００分～２０時００分
場所	宇治市役所 ８階第会議室
出席者	（委 員） 榊原会長 薮副会長 丹羽委員 竹内委員 井戸本委員 内田委員 市橋委員 田中委員 清原委員 （報告者） 宇治中学校ブロックラーニングコーディネーター白井教諭 木幡中学校ブロックラーニングコーディネーター齋藤教諭 黄檗中学校ブロックラーニングコーディネーター江上教諭 （事務局） 岸本教育長 伊賀教育部長 上道教育部副部長 林口教育支援センター長 栗田教育総務課長 山口学校規模適正化推進室長 吉田学校管理課長 齋藤生涯学習課長 金久教育支援課長 吉田学校教育課長 藤田学校教育課副課長 土井学校教育課総括指導主事 石田学校教育課学校教育指導主事
配付資料	資料１ 令和３年度第２回宇治市小中一貫教育推進協議会資料 資料２ 令和３年度第２回宇治市小中一貫教育推進協議会当日資料

１ 開会

- ・岸本教育長 開会挨拶

２ 報告及び協議事項

（１）報告１ 令和３年度宇治市小中一貫教育の取組について

資料１の１～１５頁と資料２に沿って説明

報告１についての質問・意見等と応答

（事務局）全体説明

（報告者）各中学校ブロックの取組報告

- ・宇治中学校ブロック
- ・木幡中学校ブロック
- ・黄檗中学校ブロック
- ・西小倉中学校ブロック

(会長)

委員から確認したいことや、この点はどうだったのかということがございましたら、発言をお願いします。いかがでしょうか。

(委員)

ご報告ありがとうございました。4つのブロックの報告を聞いて、単純な感想になりますが、コロナ禍が2年にもわたっていて、コーディネーターのお立場でご苦労が多かったと思います。その中でも、施設一体型の一貫校のアドバンテージみたいなものをちょっと感じました。それがいいとか悪いとかではなくて、現実として連携ということにおいては、施設一体型のほうが若干有利と言うかアドバンテージがある中で進めてくださったなという感じがしています。

(会長)

では、私のほうから、3点ほどあるのですが、一つは木幡中学校に詳しくお伺いしたいのは、分析のことです。コロナ禍だから、ある意味、できることを考えるということで発案されたと思いますが、そうした、やがてコロナが明けるだろうと考えた時に、今バックヤードと言いますか、今後生かせそうなことがありましたら、教えていただけるとありがたいのですが、いかがでしょうか。

(報告者)

学力を上げるため、授業を改善するということが本当の目的ですけれども、実際ブロックごとに児童生徒の質が違ふと思ったので、それを理解して授業をするほうがいいのか、という考え方から入っています。

学力と質問紙の相関関係を調べてみたのですが、赤色は何かというと、赤色はまったく相関関係を示していないものです。ということは、本ブロックでは赤色が非常に多いということがわかります。

要するに学力とこの質問紙の回答は相関関係が成立していないということがわかってきました。それが何故なのだろうということを理解することは、学力だけではなくて、うちのブロックの重要な点だと思っています。頭の中で、これが何故起こっているのかを考えると、自分自身が児童生徒を把握しきれていない。例えば数学ができないと思ってしまっているということが起こっているのではないかと考えています。

ただ、ポイントがわかって何をするのかという話になると、なかなか難しいのですが、知らないよりは知っているほうが必ず役に立つと思うので、時間はかかりましたけれども質問紙を調べたことは意義があると思っています。自分の住んでいる地域の生徒の特徴を考えるということが良かったかなと思います。

(会長)

今のご指摘は、ブロックの中で、もちろん共通するところもたくさんありますけれども、小学校から上がってくるお子さんの、中学校に上がったからの変化を見ていく時に、どういうふうな特性・特長が、特に学力面であるのかという研究となっていて、大事なことはないとお聞きしました。

授業研究や校内研究という、どういうふうに授業を進めていくのかということも大事なことなのでしょうが、あわせて、どういった子どもに教育を提供しているのかという、そうした面に分析の目があれば、コロナ禍での学校経営のあり方として非常に大事な点を示していただいているのではないかなと思ってうかがいました。

同様の経験をご紹介いただければありがたいのですが。いかがですか。

(報告者)

ブロックのことを申し上げさせていただきたいと思います。先ほどのお言葉を借りるようですが、本ブロックでも今年度、遅くなったのですが、全国学力テストの分析を進めていきました。先入観で、学力は低いのではないかと見ていたところが、実際に学力分析を試みたところ、経年変化を見ると数値が徐々に上がっていくところもあって、質問紙の、国語の勉強が好きですか、国語の授業の内容がよくわかりますかでは、全国、京都府と比べて、あきらかに数値が高いのです。

教職員にも研修でこの数値を見せると、びっくりしていました。教師の生徒理解、把握が、解けなかった点数の部分の把握だけで終わっていたところがあり、私自身も分析が得意なほうではないので、せっかく宇治市アクションプランで質問紙調査をとりあげているので、実際に数値にしてみるのも面白いし、小学校の先生方にも自校の分を見ていただいて、子どもたちはこう思っていますよ、その上での授業づくりを考えませんか、ただ点数だけに注目するのではなく、まずは先生方自身でもってやってみてくださいと、言っています。そこからどういった授業を作っていくのかは、中学校であれば各教科に任せていくところもありますし、新しい評価も入ってきていますので、いろいろと日々研鑽していくものだということで、進めていっております。

(会長)

今のご指摘は、エビデンスベース、証拠というのか、客観的なデータに基づいて議論を組み立てるとい、そういうことが大事なところで、印象や過去の経験に引っ張られて「こんなのとちゃうの」という感じですねがちな面がありますが、全国や京都府全体で行われている調査ですので、それぞれのブロックで比較してみたらどうなるのかと、先生方には研修の機会も義務もあるので、そうした機会を生かしていただきながらバックヤードを育てていただくということがとても大事なのかなと思いました。

もう一つ、I C Tの活用に関わるご経験があれば、コロナ禍が去った後でも全部対面でなくてもいいのではないか、という発想も生まれることでしょう。子どもの関係でもいいですし、学校間の関係でもいいですし、あるいはまたご自身の取組の中でもこういうふうにしたらいいいのではないかとということがあれば教えていただだけませんか。

(報告者)

宇治中学校ブロックでは、小学校の理科の実験で、物の共有が難しい中で、理科の先生がZ o o mを利用して、試行錯誤しながら、子どもたちに気軽にリアルタイムで見せるという工夫をされています。

また、6年生を送る会ですが、1年生から5年生まで事前に、担当の先生が一人ずつ動画を撮り i P a d上で編集して、色ごとに体育館に集まった6年生が、1年生から5年生までのお祝いメッセージを見て、体育館にいる6年生はZ o o mで体育館の中から楽器の演奏と、感染対策に留意した上で実施した劇を、教室にいる1年生から5年生までに見せて感謝の気持ちを伝えるという交流の会を行いました。ふだん体育館に集まって6年生を送る会をしますが、Z o o mで今年度やってみて、6年生も笑顔で良かったなと、こういった制限の中でも6年生が引っ張ってきてくれて、やれて良かったなという思いでいます。次の卒業式もできるのではないかと考えています。

(会長)

全てが対面でしなけりばならなかつた時代が過去のものと言うか、対面は対面で大事なわけけれども、それ以外でできることがあれば、それはそちらに譲って、対面だからこそこできることに傾注すると言うか、メリハリをつけると言いますか、そういうことも大事なのかなと思っています。

それでは報告2に参ります。今年度の推進協議会の活動について、事務局からご報告をお願いします。

(2) 報告2 令和3年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について

資料1の16頁に沿って事務局より説明

報告2についての質問・意見等と応答

(会長)

学校視察にご参加をいただきました委員の皆さま方から感想や、ご意見をうかがえればと思います。ご紹介のあった、第90号の教育だよりに広野中学校ブロックと槇島中ブロックの視察の感想が書かれています、あわせてご意見をきかせていただければと思います。

(委員)

広野中学校の視察では、オンラインミーティングで児童会生徒会をしていました。小中学生は今どきの子どもたちという感じで、ゲームにも慣れていますから、オンライン開催に全然臆することもなく、スムーズに交流されていました。ニュースで聞いたのですが、コロナ禍において大都市では、さかんに普段の授業からZ o o mを使いオンラインで授業をするということを取り入れているそうです。きっと低学年の子どもたちでも、ちょっと教えるだけでスムーズにできると思います。

先ほどから話が出ていましたが、6年生の半日入学やクラブ体験は本当に大事なことだと思います。小中一貫のブロックのいろいろな取組をオンラインで進めていくということ、これからどんどん増やしていき、例えば小学校も中学校も教室に大きなモニターがありますので、中学生の英語の授業や、先ほどご紹介のあった理科の実験の授業の風景を見ることが小学生にとって、興味があると思うのです。中学生の授業や生活の習慣を小学生がモニターで見られると、これから小中一貫教育を進めていく上で、気分的、気持ち的にも親近感がわいて、よいのではないかと思います。

(委員)

私も10月26日の広野中学校ブロックの取組を参観しました。教育だよりも掲載されていますが、まず取組のテーマが「福島ひまわり里親プロジェクト」というもので、非常に具体的かつ夢のある取組になっているので、児童生徒はモチベーション高く取り組んでいて、非常に感激しました。

さらにもう一点ですが、このZ o o mの活用の中で、途中でグループ協議に移っていくのですが、それぞれの分散したグループのディスカッションの中の、中学校の生徒会役員のコミュニケーション能力の高さに驚きました。いわゆる、自分たちが言いたいことを言う、引っ張っていくのではなくて、教職員の世界でも課題となっているファシリテーターとしての役割を十分に果たしていました。

施設一体型の宇治黄檗学園の子どもたちに、今年3月、インタビューをしました。ある日は小学生に、ある日は中学生に、いろいろ投げかけをしました。この小中一貫校でもっとどんなことがしたいか、どんなことができると思うかを聞いたところ、2校種とも異口同音に、もっともっと授業や特別活動で、せっかくだから、小学校と中学校がからむべきだということを、子どもたち自身が言いました。

実際、同じ職員室で業務をしながら、小学校と中学校の教員が子どもの授業・取組を介して積極的にコラボレーションをするということは、見受けられなかったもので、子どもたちには、そういう発想がないのかと思っていたら、逆にもっとやりたい、もっとやってほしいと言うのです。ですから、今回この広野中学校ブロックの取組を見て、是非、11年目を迎え

る宇治黄檗学園でも、令和4年度に向けて、異校種のコラボレーションを積極的に取り組んでいくべきだと思いました。

(会長)

他に、ご意見はいかがですか。

(委員)

広野中学校の取組を見させていただいた率直な感想は、すごくカッコいいなということです。生徒、児童、運営されている先生方も含めてカッコいいなという印象でした。委員の立場としての視察だったのですが、コーディネーターの立場で話をさせていただくと、10月のこの時期と言うと、本ブロックでは取組が、3つ、4つと中止が決まっていたころでした。視察に行くときは、本当にできるのかなというような半信半疑で見に行きました。

いざ視察に行くと、率直に、「できるやん」と思いました。小学生が中学校に行くとか、中学生が小学校に行くということが、できないものだということを、植え付けられていたのだということに気づき、反省する機会となりました。

Zoomで簡単にできるということもありますが、生徒会の生徒たちに「やらされている感」が無いと言いますか、自分たちで主体的に児童たちをぐいぐい引っ張っていました。話に入っていた児童たちも、いずれ自分たちもそちら側の立場になっていくのだというイメージが湧きやすいと思います。名前も「HOT-MEETING」という非常にかっこよくて、新しいかたちで実践されていて、しかし他ブロックでもできないことではないと思うので、下半期には本ブロックでもICTを算段してできることはないかと考えられました。本当によい機会となりました。

(会長)

進行計画などにも関係しますが、これまでは「みんな一緒」とか同じことをやっていくというのが、教育の大事な面でしたが、それに加えてダイバーシティとかインクルージョンとか、お互いの違いを認めながらやっていくということ、例えば同学年だったらやらないかもしれないけど、中学生が小学生を誘っていくということがきっかけになって、「こんなことができるんだ」という自信を築いていくことになっている。エンパワメントという言葉がありますが、力を得ていくという人間の不思議さとか面白さということを子どものほうがむしろ体現しているのかもしれないと思います。

それでは、榎島中学校ブロックに行かれたことについて、副会長お願いします。

(副会長)

榎島中学校の和 문화体験で、着付けと生け花の体験授業の風景を拝見しました。感想としては、私の反省点になるのですが、小中一貫教育がもう10年目を迎えたので、次のステー

ジ、次のステージということ、望むところがあり、子どもたちの学力の向上というところに焦点を当て、目が行くのです。この授業の参観を通して、日本の文化に触れている子どもたちの様子を見ていますと、人格の形成においては、このようなソフトの部分の配慮というものが大事だと感じました。

学力の向上について、私の勝手な思い込みかもしれませんが、つつい現場の先生方に期待して、頑張ってもらいたいという思いばかりが先に立つのですが、子どもたちの総合的な発育というか、生きる力を与えていくということにおいては、先生役で来られていた地域の方々のお力というのも大事なのだと思いました。

だから、小中一貫教育は、学力向上ばかりに目がいていましたけれども、もっと総合的なところで捉えていかなければいけないなというところを、私自身が視察を通して反省することになりました。

(委員)

1 1月4日に、榎島中学校ブロックに行きました。

2つほど思ったことがあります。一つは、お手伝いの人を見て、どのような方が来られているか、どのように教えているのかということが気になりました。生徒は順番にスムーズに活動していました。講師に来ていた地域の方が、ものすごく上手なのです。たくさん子どもたちに着物を着せ、順番にいろいろなことをしていかなければいけないけれども、慣れているので、上手だと思いました。

もう一つは、一昨年にこの会の報告書の中で、榎島中学校ブロックのSDGsの取組について知りました。「服のチカラ」でした。どういうものか聞いて、コロナの中でできないものかと思ひまして模索していたところでしたが、やってみたいと思いました。小さな山の中の小学校なのですが、先生にやってみようか、やろうと話をし、決まりまして、今年で2年目になります。けっこう田舎でおいちゃん、おばあちゃんが多いからなのかもしれないですけど、子どもさんのものをけっこう持っておられるのですよ。何カ月もしてたくさん集まってまいりました。わりと好評で、それを子どもたちが詰めたり、梱包したり、お出掛け会で送ってくださいとか、そういう全体でやれるような取組をさせていただきました。その取組をされていた榎島中ブロックを視察することができました。やはりこのコロナの中で皆さんそうだと思うのですけど、何ができるかなというのが、今抱えておられる課題というか問題だと思うのです。

あれもしたかった、これもしたかったと反省を言われたけれど、その反省したことを、次やるなら、次はもっとこうしたいという逞しいコーディネーターさんの意見も聞かせていただきました。

(委員)

私も11月4日に榎島中学校の和文文化体験に参加しました。校長先生からの話では、もと

は生徒指導や、規律の定着につながるような取組ができないかと、先生方で模索してこの取組を始めたということでした。PTAの活動を学校の中で積極的にしていただこうと考え、保護者に学校に来ていただき、挨拶をしたり、生徒たちを褒めていただいたり、見てもらう中で、子どもたちが非常に良くなってきていると実感を持ったと言っておられました。具体的に言いますと、例えばスカート丈が直ったということもおっしゃっていました。大人がたくさん学校の中に入り、見ていただき、褒めてもらえることで、生徒たちの心が非常に豊かになったとききました。

今回この出前授業は、地域の方が丁寧に指導しておられ、子どもたちも生き生きとしていて、とても楽しそうに参加をしていました。授業をコーディネートする担当の先生方も非常に綿密にスケジュールを組み、当日を迎えていました。講師の先生方もたいへん喜んでおられ、地域と学校が一体となって取り組んでいることと、それが定着しているということがわかり、非常に素晴らしいと思いました。

最後に校長先生が、これをずっと続けてきてどうだったかということを振り返り、当初は手探りであったが、生徒たちにとって成功体験となり、教師の成功体験にもなった。この成功体験を積み重ねていき、お互いに自信になった。そして、子どもの変容を見ることが教師にとっては非常に大事なので、特に若い先生方が互いに成長していると実感を持つようになってきた。と、おっしゃっていました。非常に大きな成果だと感じておられることが印象的でした。とても良い取組でした。

(副会長)

校長先生の話も印象的でしたし、大変な時代があったと伺いました。その中で、2014年くらいから、地域や保護者の方に花一輪を教室に置きに来てもらうことが始まりで、それをきっかけに教室の様子をちょっとのぞいてください、褒めてくださいと、外部の目を入れた。学校にとってはしんどい面もあったと想像しますが、褒められ体験があり、徳育という部分で育っていったことが、7年8年くらい経ち、今日に至っているということが非常に印象的でした。

つまり、困難な状況がきっかけではあるが、槇島地区の外部資源である着付けができる方やお茶に詳しい方、お花を教えてください方を生かしながら子どもたちを見ていくということと、特にお家で生け花をされることも多くないでしょうし、生けた後で持って帰ってお家で話をしてもらおうと、またやってみようというフィードバックの効果があるところが印象深かったです。

それから、それぞれの地域の共通項かもしれませんが、それぞれのブロックや地域に即した子ども、あるいは外部資源を、地域状況に応じて、できることを通じて、地域と連携、あるいは小学校、中学校とのつなげ方が可能になっていくのだという好事例を拝見しました。

そして、マスクはしながらですが、地域の方が、近い距離で帯を締めたり、文字通り触れ

合いながら着物を着せ、肩を叩いたり、話しかけて確認したりする姿が、自然に見えましたし、子どもにとっての先生として一翼を担っていらっしゃるのだなと非常に感銘を受けました。

(会長)

ほかに、こうだった、ああだったということはありませんか。

では、次の報告に進めます。

(3) 報告3 令和4年度に向けて

事務局より説明

報告3についての質問・意見等と応答

(会長)

多かれ少なかれ、コロナ対策をしながらの小中一貫の取組になるかもしれないということを鑑みて、視点の見直しという提案もありましたけれども、今年1年、あるいはこれまでの経験から、こういうことはできるのではないかという取組の方向性、あるいは着眼、具体的な方法など、ブロックを一番よくご存じのラーニングコーディネーターから、伺いたいのですがいかがですか。

4月以降、もしやるのだったらこういうふうにしてほしいとか、こんなふうだったらやりやすいとか、今悩んでいるこんなところはどうかなどアイディアとかご意見を頂ければと思います。

(報告者)

今回行った質問紙のデータの分析に関して、各校に配られるものなので、例えば学力結果の、名前が入っているデータを頂くことは厳しいと思いますので、名前の入っていない質問紙のデータは、ラーニングコーディネーターに頂けるようなシステムであればスムーズに作業できると思いました。

他には、ICTについて、今はZ o o mが40分で切れるのですが、40分で切れると使い勝手が悪いので、T e a m s でやろうとすると、条件があって使えていないのです。個人的な意見ですがT e a m s を使ってやれるようにならないといけないと思いますが、1時間の授業が50分なので、Z o o mを、せめて50分使えるようにならないと、使い勝手は悪いと思っています。難しい話だろうとは思いますが。

(会長)

1点目についてはパスワードとか情報保護を施した上で、委員会のほうからクラウドなどにアクセスできるようにしてもらえれば、省力化できるのではないかなと思ったので、事務局のほうで検討していただければありがたいと思います。

2点目は、今は、無料会員でもこのコロナ禍を鑑みてZ o o mがサービスしてくれていると思います。

(報告者)

Z o o mとかI C Tを使つての授業が今後どうなるのかわからないですが、できることをやっていきたいと思います。Z o o mで行った6年生を送る会もそうなのですが、小中一貫で気軽に、どの先生も使える仕組みを宇治市全体で統一でき、学校ごとに特色があると思うのですが、学校ごとに違うという例外なく、宇治市としてシステムがある中でそれぞれの特徴を出していけばいいので、整理できれば先生方も使いやすいと思います。

(会長)

その点で教育センターなどに研修をやってほしいというリクエストはありますか。効果を狙ったマニュアルを作してほしいとか、何かを聞ける窓口を開けてほしいとか、ありますか。

(報告者)

動画とか誰でもアクセスできる、そうしたものがあればいいかなと思います。研修だと行ける先生が限られてくると思います。

(会長)

教育センターにもリンク先などを用意してもらって見たいところを見られるようにできたらいいと思います。

(報告者)

Z o o mの仕組み自体をもう少し簡単にできるようにしてほしいです。パスワードが何だったかということがよくあるので、もっと簡単にできるようになればいいかと思います。

(会長)

質のいい動画がY o u T u b eなどにフリーアクセスできるものがあるので、それは誰でも使えるというつくりになっていますから、こういうのを見たらよいという案内を教育委員会にしてもらいたいと思います。上手い人はいっぱいいますから、学校に情報提供してもらおうほうがありがたいかもしれませんね。事務局のほうでも考えてください。

(報告者)

この会議の前に小学校の教務主任会があり、話をしていたのですが来年度7月くらいからiPadの持ち帰りが始まるということをきいています。7月に始まるというと3ヶ月もないので、どういうことを私たちが発信して、さらにそれを各担任の先生たちにどう伝えていかなければならないかということが難しいと考えています。ICT支援員はいるが週に一度なので、その機会に合わせて何か会議をもって研修会を行うとかも厳しいという話をしていました。今は、やむを得ずの持ち帰りで、お家で学習していることもありましたが、Zoomを使って授業をするということについては、特に小学校1年生に使えるようにするには学校でも練習が必要だと思っています。親御さんがいらっしゃらないと、上手くつながらなかったりします。こんな時はどうしたらいいのかなというようなことがあるので、早め早めに教務主任会でも話をしていこうと、言っていました。

(会長)

家庭によって、Wi-Fiの環境が異なるので、貸出に影響もあるかもしれませんので、情報は必要だと思います。

(報告者)

本ブロックの教員の意識というのは、小中一貫という言葉は、知っているけど深いところまでは知らず、この会議やコーディネーター会議で私が話を聞いたことを伝えるだけでストップしてしまっているところがあります。ホームページに関しても、単純にワンタッチで小中一貫に辿り着いて、ブロックが何をしているかすぐにわかるとういことだと思います。iPadであれば簡単に見られるので、身近に感じられる仕組みがあればと思います。今でもありますが、もう少し簡単にできないものかと思うので、何かかたちにできたらと思っています。

(会長)

DX、デジタルトランスフォーメーションがコロナで後押しと言うか、進められている部分もあると思うので、何でも事務局にお願いばかりで申し訳ないのですが、依頼のページをつないで、共有できるかたちで、先生方がわかりやすく接することができる、また、日々関わっていることが実感できるような仕組みをご検討いただければ、ラーニングコーディネーターの方が働きやすい、時間的にも効果的なものになる可能性も高まると思うので、よろしくお願いします。

委員のほうから来年の方針を、今年度に準じてという説明がありましたので、来年度に向けてこういうところをお願いしたい、こういった感じでやっていったらどうかというご意見をお願いできますか。

(副会長)

先ほど、来年度から宇治市全体でコミュニティ・スクールと地域学校協働活動が本格的に稼働すると説明された中で小中一貫教育との親和性がたいへん高いものと思われるというコメントがありました。そのような感覚は私も持っているのですが、実感するのにはもう少し時間がかかるかと思います。

先ほどの槇島中学校の視察等での取組も重なってくるのですが、上手に関係づけられるとありがたいと思っていますし、地域の一員として、けっして傍観者であってはいけないということも感じていますので、上手に使ってください。

(委員)

コミュニティ・スクールに関して、ちょうど11月の時に地域と、PTAと宇治市と少年補導と一緒に挨拶運動をして、その後市長とにぎわいミーティングをした時に、PTAも全面的に協力して、地域と学校とを結ぶ橋渡し役になれば、どちらも全員がウインウインな関係でいられるのではないかなというお話が出ていました。PTAの負担が大きくなってなり手がなくなるのは困るのですが、できることからできることを進んでやっていけるように、PTAの意識も変わっていったらと思っています。

先ほどのタブレットの持ち帰りの話ですが、子どもだけの状態でWi-Fiにつなぐことができたとしても、はたしてちゃんと勉強をしているかという点、保護者としては不安なところがありました。これについてもうまくやっていければと思います。

(委員)

教育だより89号の下の方、真ん中の職業体験の写真ですが、私が子どもたちに地域からということで、こうやって穴を掘ってやるのだよと教えて子どもたちが体験したものです。実際に地域と学校、それから子供たちと、ものすごくつながっている関係を感じていて、やっている本人もものすごく嬉しいです。

子どもたちも喜んでくれていますし、先生方も喜んでいただいていますし、今年度は5、6年生に本棚を作ることを指導して持ち帰りしてもらっています。これから始まるコミュニティ・スクールも、同じ方ばかりやっていてはいけないので、地域で、ほかの特技を持っておられる方を探して、こういう時にはこの人に来てもらおうとか、発展していくといいと思います。僕らもまた地域のいろいろなところで協力させていただこうと思っています。

小中一貫の話にもつながってくるのだと思いますし、小中一貫だけではなくて青少協とか少年補導とか、何かひとつのものとつながっている感じがしますので、また協力をさせていただきたいと思っています。

(委員)

学校としては来年度から始まるコミュニティ・スクールに向けて準備を進めている段階

で、先日、来年度本校の学校運営協議会に入っていただく方と個別にお話をさせていただく機会がありました。その時に、自分は、学校のしっかりした応援団になる、というような力強いお言葉をいただきました。

すごくありがたく、心強かったです。そういう地域の方とか学校の周りの方、学校を応援するという気持ちを持ってくださることが、ほんとうに学校側はとても嬉しいし、ありがたいし、一緒にできると実感いたしました。地域学校協働活動では、学校もいろいろな地域の団体の方にお世話になっていくと思うのですが、小中一貫の視点でいくと、自分はいろいろと校区の中で、考えていますが、それをもう少しブロックの中で広げてブロックの中でこういう方もいらっしゃるよ、こういうことをやっている方もいらっしゃるよということが、何か共有できて、情報ももらえるといいなと思いますので、今後、推進委員の方同士の連携もしていただけるとありがたいと思っております。

(委員)

学校で子どもたちに、実は宇治市で2番目の小中一貫校が作られる、このことについてどう思うかと、投げかけました。子どもたちの中から、ぜひ交流がしたいという声がありました。自分たちは近くの木幡中学校とか東宇治中学校の生徒と話をしても仕組や施設の違いで、ちょっと話がかみ合わないところがあるから、同じ思いを共有できる学校が市内にできたら、その児童生徒とお互いのメリットやデメリットを共有したいと話をしていました。

その前にも一貫校のメリットやデメリットを子どもたちに聞いたのですが、宇治市議会で出ているような、大人が言うような意見がそのまま長所・短所として出てきました。子どもたちがこんなことを思いめぐらしながら、ずっと学校生活を送っていたのだということがわかりましたし、今後、西小倉のほうで5年後の開校を目指して建設される中で、おそらく大人だけではなく子どもたち自身も、その開校に関係する5年生以下の子どもたちは、自分たちもその校舎に入ると意識するでしょうし、リアルな交流につながらなくても、画面を通して南小倉小学校、西小倉小学校、北小倉小学校の5年生以下の子どもたちと交流し、数年がかりで、気持ちが上がっていくような取組ができればいいなと思ったところです。

(委員)

コミュニティ・スクールのことですが、西小倉中学校ブロックの西小倉小学校、南小倉小学校、西小倉中学校、この3校は以前から私が所属しています青少年健全育成協議会の行事にそれぞれ中学校の生徒たちに来てもらったり、地域の学校の先生として料理教室を開いたりして以前から交流があります。

先日1回目の顔合わせがありまして、西小倉中学校の校長室で南小倉小学校、西小倉小学校の校長先生と私たち南小倉の青少協と西小倉の青少協会長とお話させてもらったのですが、体育振興会や喜老会などの団体があるので、その中からもたくさん参加していただいて

中学校ブロックのコミュニティ・スクールをもっと盛り上げていこうと話しました。ただ、今はとにかくどこをどのようにしていいのか、漠然としすぎていて、進め方がわからないというのと、4月になりましたら先生方の異動があり、それはどうしようもないことですので、また新しい年度になって新たにコミュニティ・スクールのことについて話し合いがあると思うので、徐々に、頑張ってお協力していきたいなと思っております。

(会長)

いろいろな意見やアイデアを頂戴しました。これはすべて、事務局にお届けしますので、可能な範囲で整合性をつけ、焦点化してご提案いただければと思います。

(4) 報告4 西小倉小中一貫

事務局より説明

質問・意見なし

3 閉会

伊賀部長より閉会の挨拶